

ホール建築におけるサービス空間の計画と運用

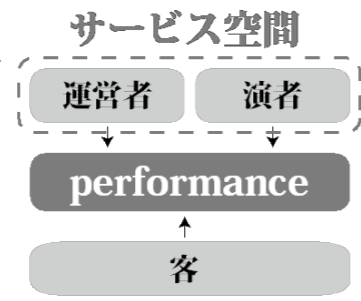
ME15065 田中 南帆

指導教員 前田 英寿

序章

サービス空間とは

サービス空間とは、楽屋や搬入口などの演者や運営者が使用する空間のこと。



研究の背景と目的

ホール建築は、パフォーマンス空間や客空間に重きを置いて計画され、演者や運営者が使用するサービス空間は後回しにされる傾向がある。サービス空間は演者や運営者のパフォーマンスに大きく影響を与える重要な要素である。演者や運営者にとって使いやすいホール建築はどのようなのか考え、サービス空間のあり方をもう一度見直してみたい。

本研究では、サービス空間の建築計画・空間構成とその使用・運用の実態の両面からサービス空間のあり方、計画的な考え方を探ることを目的とする。

研究の位置づけ

<既往研究>

- ・小野田 泰明 (1994) コンサートホールの演奏周辺空間の建築計画に関する研究 ホールの建築計画について網羅的に研究されている
- ・青木 巖 (1992) 演劇劇場における楽屋部門に関する研究 楽屋空間は効果的な上演のために必要なリラクゼーションと集中の場として捉えられていたが、それをバックアップする体制が建築的にも運営上も確立されていないとした
- ・横田 香苗、本杉 省三 (2003) 多目的ホールにおける楽屋広さと位置について ヒアリング調査やアンケート調査を行い楽屋の広さの目安や楽屋舞台間の移動についてレベル差がないことや明るさが求められることを訴えた
- <本研究の独自性>
- ・劇場技術者（必ずしも建築関係者ではない）が選んだ事例（優良ホール100選）を取り上げ、公共・民営・多目的・演劇・音楽など運営も演目も異なるホールを対象としている。
- ・ホールを建築単体としてだけでなく都市や街区の一部としても捉え、立地と周辺との関係も分析した。

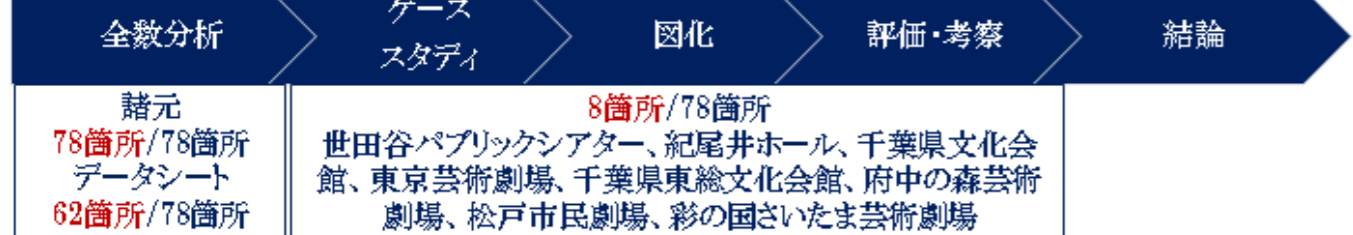
研究対象

本研究では優良ホール100選を対象とする。優良ホール100選は日本音楽家協会と日本劇場技術者連盟が共同で、優良なホール（劇場・音楽堂）を称賛するためにつくられた認定制度である。

選定は、「劇場技術者からみた使いやすいホール」を全国から推薦を募り、日本音楽家協会と日本劇場技術者連盟の評議員によって審査を行っている。

研究構成

序章では本研究における用語や研究対象を定める。第1章では研究対象全数について語元や図面からホールとサービス空間の類型化を行う。第2章では訪問可能な8箇所にヒアリング調査を行って利用や運用の実態を把握する。第3章でその詳細図化を行って都市・街区・敷地・建築の各レベルで分析する。第4章では第2章でヒアリングを行ったホールについて評価・考察を行う。



第1章 全数分析

データシート

図面の入手できた62箇所のホールについて語元と図面をまとめたデータシートを作成した。内容はホール名、配置図、語元（所在地、開館年、ホール座席数、ホール種別、延床面積、構造、設計者、管理・運営者、賞歴）、図面（舞台を赤、楽屋を青、事務室を黄色、中庭を緑に着色）、図面の引用元をまとめた。

語元の傾向

パバルでの集中的な公施設整備によってつくられたホールの老朽化が進行し、今後も建替えや改修が必要なホールが増えてくると考えられる。

また現在の管理方法は指定管理者制度が8割以上であることがわかる。

舞台と楽屋の位置関係

舞台と楽屋の位置関係について①舞台の裏、②舞台・客席の横、③舞台の裏+舞台・客席の横、④ホワイエ・客席の下、⑤ホワイエ・客席の下+舞台の裏 or 舞台・客席の横の5種類に分類した。

楽屋と舞台が近く、段差がないものが多いと考えられるが、敷地の条件や建物内の他の施設との兼ね合いによって様々な位置関係になっているのだろう。建物単体だけでなく都市や敷地などの外的要因からも考察を行う必要があるだろう。

全数調査一覧表

ホール名	所在地	開館年	ホール種別	座席数	延床面積	構造	設計者	管理・運営者	賞歴	図面引用元
世田谷パブリックシアター	世田谷区	1970	多目的ホール	1,500	10,000	鉄骨	野村浩一	指定管理者	優良ホール100選	図面引用元
紀尾井ホール	千代田区	1970	音楽ホール	1,000	5,000	鉄骨	野村浩一	指定管理者	優良ホール100選	図面引用元
千代田文化会館	千代田区	1970	多目的ホール	1,000	5,000	鉄骨	野村浩一	指定管理者	優良ホール100選	図面引用元
東京芸術劇場	千代田区	1970	多目的ホール	1,000	5,000	鉄骨	野村浩一	指定管理者	優良ホール100選	図面引用元
千葉東総文化会館	千葉市	1970	多目的ホール	1,000	5,000	鉄骨	野村浩一	指定管理者	優良ホール100選	図面引用元
府中の森芸術劇場	府中市	1970	多目的ホール	1,000	5,000	鉄骨	野村浩一	指定管理者	優良ホール100選	図面引用元
松戸市民劇場	松戸市	1970	多目的ホール	1,000	5,000	鉄骨	野村浩一	指定管理者	優良ホール100選	図面引用元
彩の国さいたま芸術劇場	さいたま市	1970	多目的ホール	1,000	5,000	鉄骨	野村浩一	指定管理者	優良ホール100選	図面引用元

第2章 ケーススタディ

首都圏の8箇所のホール（世田谷パブリックシアター、紀尾井ホール、千葉東総文化会館、東京芸術劇場、千葉県東総文化会館、府中の森芸術劇場、松戸市民劇場、彩の国さいたま芸術劇場）の運営者や舞台技術者から利用や運用の実態についてヒアリングを行った。

楽屋や舞台倉庫などサービス空間の空間量の確保を課題とするホールが多くあることが明確になった。増設を行ったホールや楽屋・リハーサル室が足りない際に会議室を代用するホールが数箇所みられた。搬入、動線、バリアフリーなどサービス空間の不完全点を運営者や演者が補っていることも明らかになった。複数のホールで搬入口を共同利用するものは時間をずらして搬入を行うように調整を行ったり、舞台技術者の補助したりして円滑に搬入が行えるようにしている。また、サービス空間への要求は演目により異なるが、要求が反映されているホールは少ないことが視察によってわかった。



第3章 図化

ヒアリングを行った8箇所のホールについて都市・街区・敷地・建築の各スケールで図化を行い、周辺の施設から建築内の動線まで分析した。都市の中でどのような位置にホールがあるか、周辺の建物や道路とどのような関係にあるかを把握する。敷地と断面によって建物配置や動線計画、空間構成を把握する。

世田谷パブリックシアター

駅から非常に近く、商業施設やオフィスビルとの複合施設で積層・分棟されている



紀尾井ホール

4つの駅からアクセスできる音楽ホールで、側舞台がない楽屋ロビーが広い



千葉県文化会館

千葉城跡に公園や図書館と一体で整備され、敷地は広いが楽屋は3層に積層される



東京芸術劇場

4つのホールが積層されており、搬入は全てのホールが同じ搬入口を利用する



千葉県東総文化会館

駅から遠いが、廊下が広く搬入や移動しやすく客動線も段差なくアクセスできる



府中の森芸術劇場

高低差によって歩車分離とそれぞれのホールに直接搬入できる搬入口を可能にしている



松戸市民劇場

小規模なホールで、搬入口や搬入用EVなどはなく楽屋も少ないため会議室を代用する



彩の国さいたま芸術劇場

客動線を2階、演者動線を1階にすることで動線の分離を行っている



第4章 評価・考察

2章のヒアリング及び視察の内容と第3章の図化を踏まえて各ホールについて評価を行い、なぜそうなったのかなど考察をした。

郊外/都市周縁型と都心型

ヒアリング調査と図化を通して、郊外/都市周縁型と都心型で分類することでそれぞれ違った問題点があることが明確になった。

郊外/都市周縁型

ワンフロアにホールとサービス空間があり、搬入や演者の移動もしやすい傾向にある。利用の内容としては地域住民のカラオケ大会などサービス空間をあまり利用しないものも多く見られる。また、アクセスが悪いことから稼働率が低いものが多いことが課題である。

都心型

サービス空間が十分に取れないことを課題として、工夫を行っている。積層を行ってサービス空間と客空間、サービス空間と舞台を違う階にすることでそれぞれの空間を充実させている。また複数のホールの搬入口を共用にさせるなどして搬入動線を集約しているものも多く見られる。

○郊外/都市周縁型（千葉県東総文化会館）

評価項目	評価	コメント	評価
土地利用	◎	住宅地に隣接し、田畑が残っている	◎
駅からのアクセス	△	住宅街の中を徒歩で通っている	△
幹線道路	◎	主要道路が複数通り交差している	◎
主要施設	◎	公園や図書館など公共施設が周辺にある	◎
隣接条件	◎	公園や図書館など公共施設が周辺にある	◎
接合条件	◎	公園や図書館など公共施設が周辺にある	◎
敷地内空地	◎	敷地内に広い空地がある	◎
駐車場	◎	敷地内に広い駐車場がある	◎
敷地内配置計画	◎	敷地内に広い空地がある	◎
入り口	◎	敷地内に広い空地がある	◎
ホワイエ	◎	敷地内に広い空地がある	◎
リハーサル	◎	敷地内に広い空地がある	◎
楽屋	◎	敷地内に広い空地がある	◎
事務室	◎	敷地内に広い空地がある	◎
搬入	◎	敷地内に広い空地がある	◎

○都心型（世田谷パブリックシアター）

評価項目	評価	コメント	評価
土地利用	△	住宅地に隣接し、田畑が残っている	△
駅からのアクセス	△	住宅街の中を徒歩で通っている	△
幹線道路	◎	主要道路が複数通り交差している	◎
主要施設	◎	公園や図書館など公共施設が周辺にある	◎
隣接条件	◎	公園や図書館など公共施設が周辺にある	◎
接合条件	◎	公園や図書館など公共施設が周辺にある	◎
敷地内空地	◎	敷地内に広い空地がある	◎
駐車場	◎	敷地内に広い駐車場がある	◎
敷地内配置計画	△	敷地内に広い空地がある	△
入り口	△	敷地内に広い空地がある	△
ホワイエ	△	敷地内に広い空地がある	△
リハーサル	△	敷地内に広い空地がある	△
楽屋	△	敷地内に広い空地がある	△
事務室	△	敷地内に広い空地がある	△
搬入	△	敷地内に広い空地がある	△

結論

楽屋や舞台倉庫などサービス空間の空間量の確保を課題とするホールが多くある。ヒアリングを行ったホールの中で増築や改修によって楽屋やリハーサル室を増やしたホールは8箇所中4箇所であり、また必要に応じて会議室などを楽屋として代用しているホールは3箇所あった。大人数が利用する演目に合わせて楽屋量を確保する必要はないので会議室や多目的室など普段は他の利用を行える部屋を設置することは有効である。従って会議室や多目的室を設置する際にはホールと合わせて使用する際のステージへのアクセスの良さや単独で利用する際のホールとの動線の分離を両立する工夫を講じたい。

郊外/都市周縁型のホールはサービス空間が充実しているが、サービス空間を利用しない演目が多く、逆に都心型のホールはサービス空間が十分ではないものが多いけれどサービス空間を多く必要としており、建築計画と利用方法にギャップがあることが明確になった。

郊外/都市周縁型は稼働率が低いことも問題としているが、4箇所中3箇所が公園に隣接しており、図書館など他の公共施設が近くにあるものもある。隣接する施設まで一体に利用するイベントなど周辺施設を取り込む工夫を行えばホールの利用の幅が広がり稼働率の増加も期待できるだろう。

都心型は敷地が狭い中でより効率的なサービス空間にするために様々な工夫を行っていることが分かった。さらにサービス空間の廊下や階段も狭くなりがちなので、循環できる動線を設ければ狭い通路ですれ違う必要が減り快適に移動できるようになるだろう。